

第 1 章

インフラ長寿命化センター活動報告

1.1 概要

インフラ長寿命化センターの概要を以下に示す。

(1) 目的

センターは、本学部及び長崎大学並びに長崎県、国の関係機関等との連携のもと、道路、河川、港湾、電気、水道、ガスなどのインフラ構造物の長寿命化に関する研究及び地方自治体等への技術支援並びに学生に対する教育支援等を総合的に行うことにより、インフラ構造物の長寿命化を図るための研究拠点を形成することを目的とする。

(2) 業務

センターの上記の目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- 1) インフラ長寿命化に特化した研究拠点形成に関すること。
- 2) 地方自治体等への技術支援等の地域貢献に関すること。
- 3) インフラ長寿命化に係る学生の教育支援に関すること。
- 4) その他センターの目的を達成するために必要な業務。

(3) 組織

平成 23 年度のインフラ長寿命化センター構成員を次に示す。

センター長	松田 浩
副センター長	山下 敬彦、中村 聖三
I 部門	部門長：奥松 俊博
モニタリング 健全度診断	勝田 順一、田中 俊幸、下本 陽一、西川 貴文、高尾 雄二
II 部門	部門長：才本 明秀
補修補強、材料・工法	原田哲夫、近藤 慎一郎、田邊 秀二、諸麦 俊司
III 部門	部門長：森田 千尋
マネジメント戦略	蔣 宇静、多田 彰秀、山口 朝彦、西田 渉、森山 雅雄 杉本 知史、安武 敦子、坂口 大作、杉山 和一、全 炳徳

(4) 運営委員会とその組織

センターの運営に係る具体的事項を審議するため、インフラ長寿命化センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。運営委員会は、次の委員をもって組織する。

- 1) センター長
- 2) 副センター長
- 3) 部門長
- 4) 研究企画推進委員会委員長
- 5) その他センター長が必要と認めた者

1. 2 活動状況

以下に本センターの活動について示す。

1) 平成 23 年度「観光ナガサキを支える“道守”養成ユニット」実施内容

平成 23 年度の活動目標を道守養成ユニットにおける長崎県をはじめ他機関との調整、実施運用のためのカリキュラム作成等々に尽力した。今年度は、各地から道守養成ユニットについて多くの講演依頼を受けた。また、共同通信社や朝日新聞社から取材を受け、道守養成ユニットが全国紙に掲載された。第 2 章参照

2) 「地域 ICT 利活用広域連携事業」(総務省)

平成 22 年度に構築した情報通信技術を活用した新たな社会基盤の維持管理(防災対応)システムの改修及び追加機能の開発に協力した。第 3 章参照

3) 「長崎県の産業を支える人材育成事業(地域を支える建設分野の人材育成事業)」

本事業は産学官が連携して長崎県立工業高校の建設・土木系学科に在籍する生徒を対象に、地域産業を担う人材を育成することを目的とした人材育成事業である。本事業において「インフラ長寿命化体験実習」を担当し、道守養成ユニット修了者の協力の下、地元工業高校生に対して講義、点検演習、現場実習を行った。第 4 章参照

4) 平成 23 年度大学高度化推進経費 社会貢献・産学連携推進プログラムの取り組みとして「再生可能エネルギーの地産地消プロジェクト～池島開発に関する視察結果(メガソーラー発電所立地提案)～」が行われた。

第 5 章参照

5) 外部資金への申請及び獲得

第 6 章参照

6) 研究活動、活動記録

第 7 章参照

7) 維持管理工学の講義

構造工学コースの学生 44 名に対して維持管理工学の講義(11 月 2 日(水)、11 月 9 日(水)、11 月 16 日(水))でコンクリート及び鋼構造の非破壊検査の講義・演習を行った。

8) 九州管内の国立大学の技術職員講習会

平成 23 年度九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修で松田浩センター長が話題提供、上阪非常勤講師、出水享研究員がコンクリート及び鋼構造の非破壊検査の講義、演習を行った。